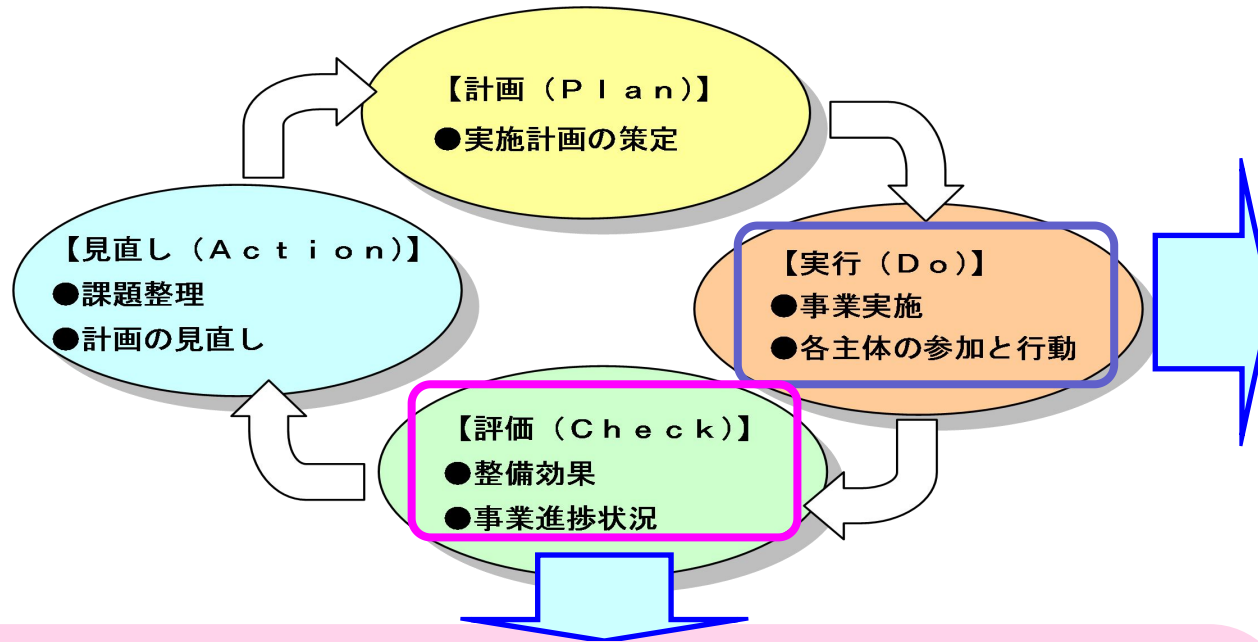

柏市総合交通計画の中間評価と 今後の施策の推進について

- | | | |
|-----|-----------------|------|
| I | 柏市総合交通計画の進行管理とは | 1ページ |
| II | 総合交通計画の中間評価について | 2ページ |
| III | 今後の施策の推進について | 4ページ |

平成28年3月
柏市 土木部 交通政策課

I 柏市総合交通計画の進行管理とは

・計画に位置付けしている「PDCAサイクルに基づく進行管理」を、計画期間の中間期に実施するもの。



●実施事例



柏駅東口デジタルサイネージ
(公共交通情報発信)



柏駅東口休日バス乗入事業



上野東京ライン開業



デマンド交通「カシワニクル」

柏市総合交通計画推進協議会(平成27年度)

- 協議会は、鉄道・バス・タクシー事業者・市民公募委員他で構成。
- (柏市の)施策の中間評価(案)をもとに、協議会において評価を行う。
- 協議会による中間評価結果をもとに、今後の重点取り組み施策を抽出。

第1回協議会 (8/28)

- 1.協議会の進め方
- 2.総合計画の評価方法について
- 3.柏市による施策の中間評価について
- 4.今後の方向性について (情報共有等)
- 5.その他

第2回協議会 (11/30)

- 1.前回会議の振り返り
- 2.上位・関連計画の位置づけについて
- 3.今後の施策の推進について
- 4.実現化への取り組みについて
- 5.その他

以下内容を市民公表

- ・中間評価の結果
- ・今後の重点施策の抽出
- ・施策の推進に向けた取組

Ⅱ 総合交通計画の中間評価について

● 柏市による中間評価

・ 方針

- ① 評価を施策実績(アウトプット)と施策効果(アウトカム)に分類。
- ② 施策効果については、施策の効果浸透等により、効果の現れにタイムロスが生ずる。
- ③ よって、**中間期の評価については施策実績に重点を置く。**
- ④ 施策効果による評価については、計画の最終年度にあたる平成31年度に市民アンケート結果他をもとに定量的に行うこととする。

・ 達成度について

- ① 計画量については、期間内に完了させる施策全体の事務事業量とする。
- ② 実績量については、平成26年度末時点の施策を進めてきた事務事業量とする。
- ③ 計画量に対する実績量をもって達成度をみる。
- ④ 達成度については、以下のとおり3段階とする。

計画に対して80～100%の実績を「A」
 // 50～80%の実績を「B」
 // 50%未満の実績を「C」とする。

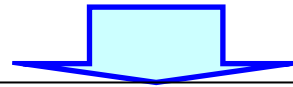
(参考) 柏市による評価調書

A. バス交通等の利便性向上(重点的取り組み施策)

A-① バス路線の充実

● 道路や駅前広場の整備に合わせて、幹線的な路線バスルートを見直すとともに、市民ニーズに対応した利便性の高いバスサービスであるか評価し、路線再編成を検討していく。

実施主体	スケジュール	短期	中期	長期	達成度
		22～26年度	27～28年度	29～31年度	
柏市 交通事業者	計画	道路・駅前広場整備やニーズに併せた路線の新設・再編成			B
	実績 (26年度末)	路線新設・再編成			
進捗状況 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 60%;"> <p>平成26年8月、既設バス路線の再編成に併せて、柏駅⇄新柏駅間のバス路線が開通された。</p> <p>その他、市民ニーズへの対応として、江戸川台駅～みどり台～柏の葉キャンパス駅間の小型バスによる路線の開通、十余二工業団地内の大型物流倉庫稼働に併せて、柏の葉キャンパス駅からのバス路線が開通された。</p> </div> <div style="width: 35%;"> </div> </div>					
今後の方向性 (中期以降) 今後も、市民ニーズに対応していくとともに、まちづくりに併せたバス路線の再編成を行うべく、交通事業者と協議していく。					



協議会では

- ① 柏市作成の評価調書に基づき各施策の概要並びに進捗状況を説明
- ② 調書の「進捗状況」及び「達成度」について、委員間で確認並びに共有



協議会における評価結果については次ページ

■ 中間評価の結果一覧

目標	基本方針	施策の方向	施策の内容	施策の詳細	評価	
目標1 環境・人にやさしい交通	方針1 自動車に過度に頼らずに生活できる選択性の高い交通環境の整備	バス交通等の利便性向上	バス路線の充実	バス路線の再編成など	B	
			コミュニティバス・かしわ乗合ジャンボタクシーの利用促進	ジャンボタクシーの路線の見直し、バスロケーションシステムなど	B	
			バス運行情報の提供（バスロケーションシステム）	柏駅東口デジタルサイネージを活用した情報発信	C	
			バスのバリアフリー化	ノンステップバスの導入他 バス停における待合環境整備他	A C	
		乗り継ぎの円滑化	駅前広場の整備	JR北柏駅北口	C	
				東武鉄道高柳駅 JR柏駅西口	A C	
			駅アクセスの向上	JR柏駅東口休日バス乗り入れ事業 東武鉄道高柳駅 東西自由通路整備	A C	
		鉄道の利便性向上	駅舎の改良	JR柏駅	C	
				東武鉄道 高柳駅	C	
			駅のバリアフリー化	駅施設内におけるエスカレーター・エレベーター整備 駅周辺の踏切道の拡幅他	A C	
		タクシーの利便性向上	駅の案内表示	駅周辺の公共施設等への案内表示他	C	
			タクシー乗り場の改善 タクシー事業の活性化	柏駅東口タクシー乗り場 EVタクシー等の導入、デマンドタクシーの普及	C C	
		環境負荷の低減	自動車交通量の削減	パーク&ライド、カーシェアリングの実施	A	
			クリーンエネルギー技術の活用	CNG並びにハイブリッド車の導入促進	A	
方針2 物流システムの適正化・効率化の推進	端末物流対策	路上荷捌き帯の対策	柏駅東西出口周辺	C		
		歩行者環境の向上	歩道のバリアフリー	バリアフリー化の促進	B	
目標2 豊かな暮らしを支える安全で安心な交通	方針3 良好な歩行者・自転車環境が確保された歩いて暮らせるまちの創出	自転車利用環境の向上	自転車利用環境の整備 ルールの周知徹底、マナーの向上	自転車総合計画の策定並びに通行空間の整備 交通安全教室等の開催	B B	
		方針4 優先順位の評価による効率的な道路整備	効率的・効果的な道路整備の推進	都市計画道路の整備プログラム策定 渋滞交差点の解消対策	プログラムの策定 交差点改良工事他	A C
	広域ネットワークを支える道路整備		千葉柏道路の整備	建設促進に係る各種要望活動の実施	C	
			大規模開発地区に伴う道路整備	大型店建設に伴う左折レーン等の整備	A	
	目標3 まちの魅力を高め交流を促進させる交通		方針5 都市拠点や地域拠点を連携し、交通機能を強化する公共交通軸の形成	幹線公共交通軸の強化	バス機能強化	柏駅⇄柏の葉キャンパス駅を中心とした公共交通軸強化
		P T P S の拡充			南柏⇄酒井根並びに柏駅⇄沼南方面のバス路線への導入	C
広域輸送力の増強		常磐線の東京駅乗り入れ		上野東京ライン開通	A	
		常磐線、成田線、東武野田線の輸送力増強			B	
		つくばエクスプレスの東京駅延伸			C	
新しい交通システムの可能性検討		高速バス路線の活用		圏央道経由による柏駅～柏の葉～成田空港へのバス路線開設	B	
	新しい交通システム	デマンド交通、LRT & BRT、エコライド他	B			
方針6 中心市街地の活性化を支援する交通施策の推進	回遊性のある歩行環境の整備	中心市街地活性化事業の展開	柏駅東口D街区の再開発、柏駅周辺まちづくり10ヵ年計画	B		
		柏駅東口ダブルデッキの改修		A		
	駐車場の有効活用	駐車場整備計画の見直し		B		
		駐車場案内誘導システムの検討	まち情報アプリの試験の配信他	C		
目標4 市民等の協働により支えあう交通	方針7 民・産・学・公の連携による交通政策の推進	次世代型環境都市モデルの展開	I T S 実証実験モデル都市	ITS世界会議東京大会時におけるテクニカルビジットの実施	B	
			地域ICT利活用モデル事業	マルチ交通シェアリング、かしわスマートサイクルの実施	A	
		市民等との協働体制づくり	モビリティマネジメントの実施	バスマップの作成、配布	B	
	交通に関する情報の提供		ツイッターによる情報発信、国道16号ライブカメラなど	B		
	方針8 市民等の協働による交通政策の推進	施策の進行管理	P D C A サイクルに基づく進行管理	施策ごとの内部評価他	A	

Ⅲ 今後の施策の推進について

1. 上位・関連計画の改定等との整合

・これまでの総合交通計画は、市の最上位計画である「第4次総合計画」と整合をとりつつ、都市計画マスタープラン及び関連計画と連携を図っている。

・国においては、「コンパクトシティ形成」に向け、関連法律の改正が行われている。
・今後も、「第5次総合計画」及び「都市計画マスタープラン」との整合をとりつつ、立地適正化計画及び地域公共交通網形成計画との連携を踏まえ、その他関連計画と連携を図っていく。

(国の動向)

都市再生特別措置法の一部改正
(H26.8.1施行)

改正の背景

- ・地方都市では拡散した市街地で急激な人口減少が見込まれる他、大都市では高齢者が急増する、と見込まれている。
- ・都市全体の構造を見渡しなが、居住者の生活を支えるよう、コンパクトなまちづくりを推進していくことが重要。

改正の概要

- ・市町村は、住宅、医療&福祉施設、商業施設その他の居住に関する施策の立地の適正化に関する計画を策定することができる。

柏市第5次総合計画(基本構想・基本計画)
(平成28年度～37年度)

柏市都市計画マスタープラン
(平成18年度～37年度)

立地適正化計画
(平成29年度策定予定)

柏市総合交通計画
(平成22年度～31年度)

地域公共交通網形成計画
(平成29年度策定予定)

連携

【その他関連計画, 構想等】

- ・柏市環境基本計画(平成21年3月)
- ・柏市バリアフリー基本構想(平成22年3月)
- ・第2期柏市地球温暖化対策計画(平成26年3月)
- ・第2期柏市中心市街地活性化基本計画(平成26年3月)
- ・柏市観光基本計画(平成26年3月)
- ・柏駅周辺まちづくり10ヵ年計画(平成27年3月)
- ・柏市自転車総合計画(平成27年4月)

(国の動向)

地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の一部改正
(H26.11.20施行)

改正の背景

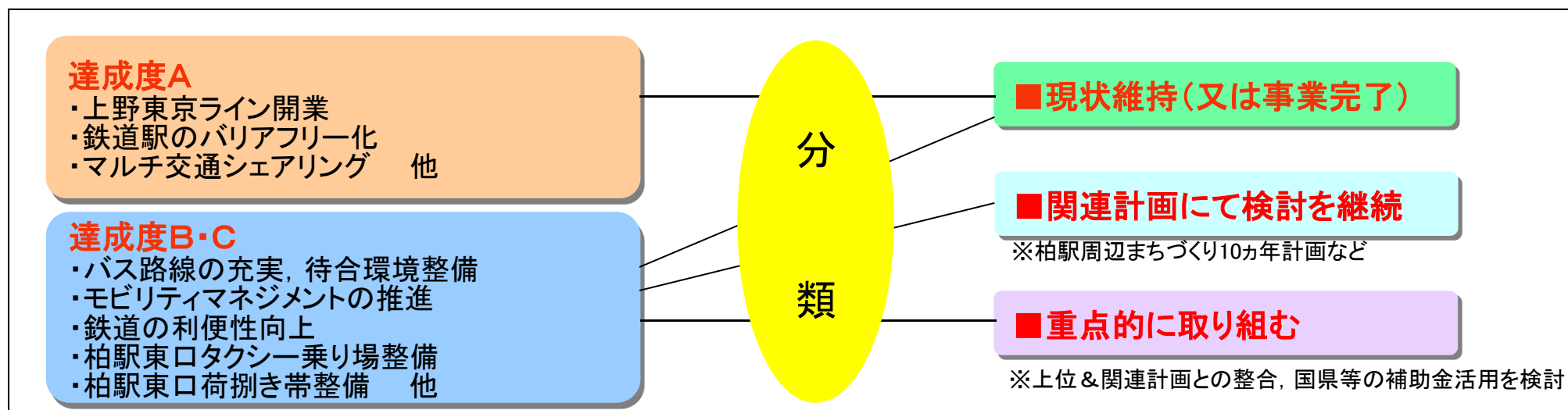
- ・人口減少や高齢化が進展する中、地域社会の活力を維持,向上させるために、公共交通の果たす役割は重要。
- ・地方公共団体や交通事業者含む関係者の合意の下、持続可能な公共交通ネットワークの形成が必要となる。

改正の概要

- ・地方公共団体が先頭に立ち,地域公共交通網を再構築する制度を創設。
- ・国土交通大臣の認定により,地方公共団体の計画の実現を全面的に支援する制度を創設。

2. 重点取組み施策の抽出について

- ・達成度A, B, Cと評価した全ての施策を, 下記の3つに分類。
- ・「重点的に取り組む」とした施策について, 着実な推進に向け, 上位 & 関連計画と整合, 連携している(していない), 国県等の補助金の活用が可能かどうかを検討。



「重点的に取り組む」の中から以下を抽出

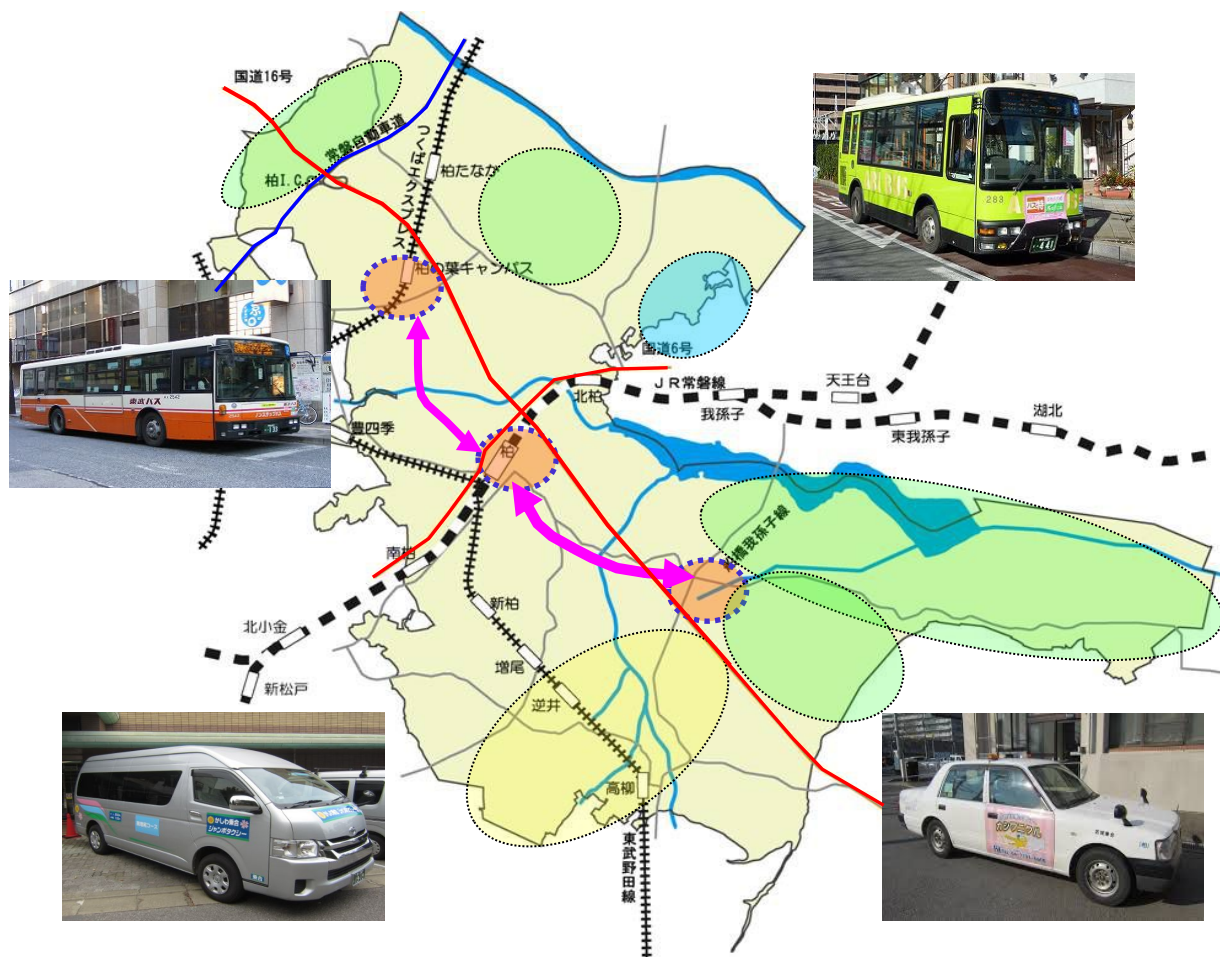
- (1) バス路線, タクシーの充実
 - ① 地域公共交通網形成計画
 - ② 沼南庁舎バス乗継場再整備
- (2) 鉄道駅の利便性向上
 - ① 高柳駅整備事業
 - ② 東武アーバンパークライン(逆井駅～高柳駅)複線化と柏市関連事業
 - ③ 鉄道駅のバリアフリー化(JR北柏駅)
- (3) 歩行者・自転車通行環境整備事業
- (4) モビリティマネジメントの推進(公共交通の利用促進)

個々の施策の概要は
次ページ以降を参照

3. 施策の概要について

(1) バス路線・タクシーの充実 ①地域公共交通網形成計画

・バス路線及びタクシーの充実については、バス及びタクシー事業者等が参画する協議会を立上げ、平成29年度末を目途に「地域公共交通網形成計画」を策定する予定。



地域特性と市民ニーズに合った、
公共交通ネットワークの形成を目指す。

(計画策定の背景)

- ・人口減少と高齢化の更なる進展。
- ・バス利用者数の減少により、路線の廃止(又は減便)が発生。⇒公共交通空白地域が徐々に拡大。
- ・公共交通に対する市民の利用ニーズが変化(通勤利用→通院&買物利用へシフト)

計画の検討イメージ

- ◎各拠点(柏の葉キャンパス駅周辺, 柏駅周辺, 沼南支所周辺)を中心とした幹線公共交通軸路線の充実
- ◎柏駅周辺における循環型バス路線の設定
- ◎生活拠点(交通結節点)への移動手段として、デマンド交通及び乗合ジャンボタクシーを必要に応じて運行
- ◎交通空白地域を中心としたデマンド交通の運行
- ◎隣接市の路線バス(コミュニティバス含む)との連携
- ◎地域コミュニティとの連携による移動手段の確保

② 沼南庁舎バス乗継場再整備

- ・柏駅⇄沼南支所周辺の公共交通軸強化に併せて、交通結節点の機能強化及びバス交通の利便性向上の為、バスプールの増設、乗継待合所並びに駐輪スペース等の整備を行う。
- ・平成28年度に設計業務を終了し、平成29年度工事着手並びに完了を目指す予定。

沼南庁舎バス乗継場再整備 イメージ



沼南庁舎バス乗継場(現況写真)



【待合所のイメージ】 参考:新潟市

(2) 鉄道の利便性向上 ① 高柳駅整備事業

・高柳駅利用者の利便性を向上させるため、駅東西を結ぶ自由通路と橋上駅舎を一体的に整備する。

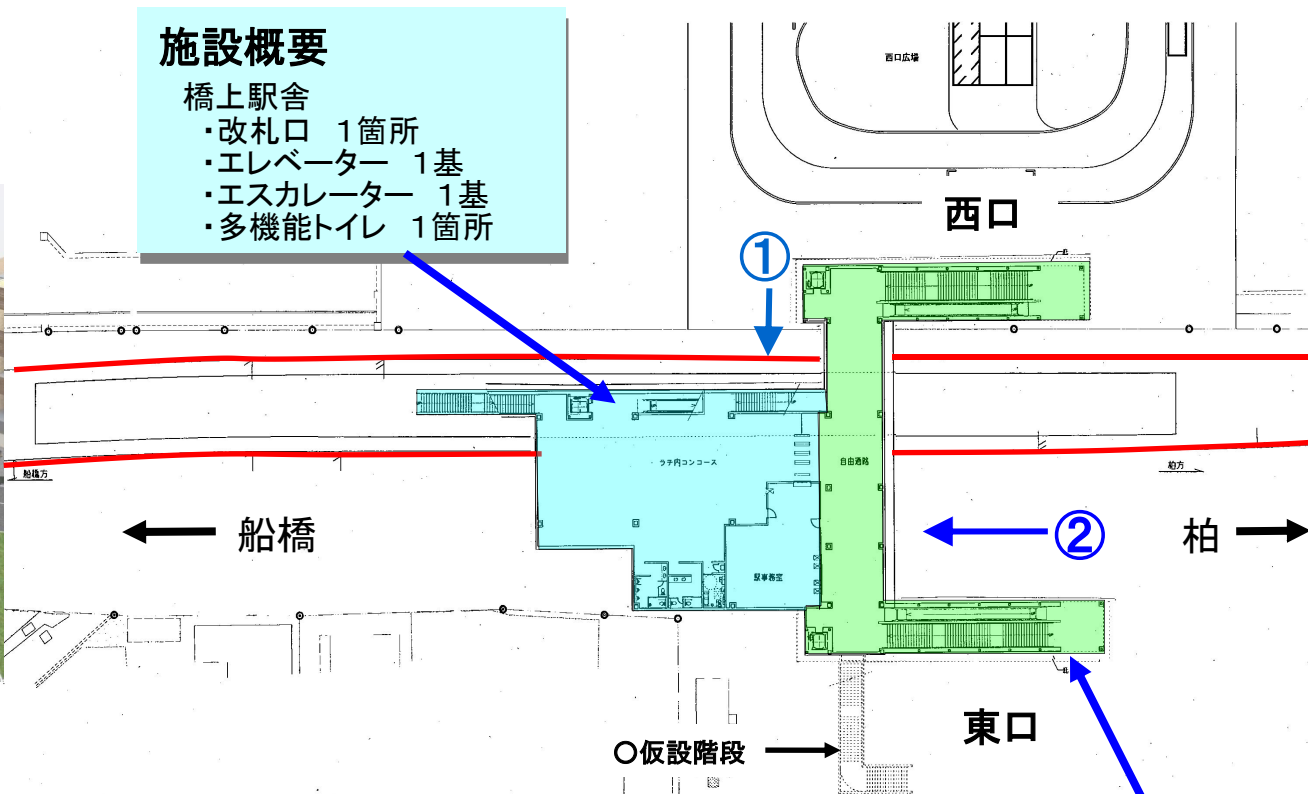
外観イメージ



施設概要

橋上駅舎

- ・改札口 1箇所
- ・エレベーター 1基
- ・エスカレーター 1基
- ・多機能トイレ 1箇所



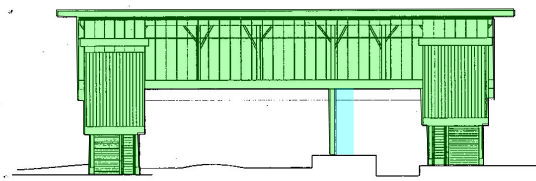
施設概要

自由通路

- ・通路延長 約40m
- ・通路幅 有効幅5.3m
- ・エレベーター 2基
- ・エスカレーター 2基



西側



北側

本図は、橋上駅舎等の外観を表現したものです。今後、詳細設計の進捗により変更する場合があります

② 東武アーバンパークライン(逆井駅～高柳駅)複線化と柏市関連事業

- ・現在, 単線区間となっている東武アーバンパークラインの逆井駅～高柳駅間について, 複線化並びにその関連事業を東武鉄道(株)と柏市が共同で行う。

平成22年3月 『柏市総合交通計画』

主な取り組み施策として

「東武野田線の輸送力増強」を明記



	《基本方針》	《施策の方向》	《施策内容》
目標3 まちの魅力を高めた交流を促進させる交通	●方針5 都市拠点や地域拠点を連携し、交通機能を強化する公共交通の形成	K.幹線公共交通の強化	①バス機能の強化検討 ②PTPSの拡充
		L.広域輸送力の増強	①常磐線の東京駅乗り入れ ②常磐線、成田線、東武野田線の輸送力増強 ③つくばエクスプレス・地下鉄11号線の延伸 ④高速バス路線の活用
		M.新しい交通システムの可能性検討	①新しい交通システム
	●方針6 中心市街地の活性化を支援する交通施策の推進	N.回遊性のある歩行環境の整備	①中心市街地活性化事業の展開 ②柏駅東口ダブルデッキの改修
		O.駐車場の有効活用	①駐車場整備計画の見直し ②駐車場案内誘導システムの検討

※柏市総合交通計画(P51)施策の体系一覧

新型車両60000系



高柳駅周辺整備の進展



駅西側土地地区画整理事業



駅自由通路並びに橋上駅舎化整備事業

平成26年6月 柏市議会第3回定例会

- ・東武アーバンパークライン逆井駅～高柳駅間の複線化並びに橋梁等の改良に対する請願が提出 → 採択

平成26年11月

- ・東武鉄道に対し複線化事業の要望書を提出

平成25年4月

- ・新型車両60000系導入

平成26年4月

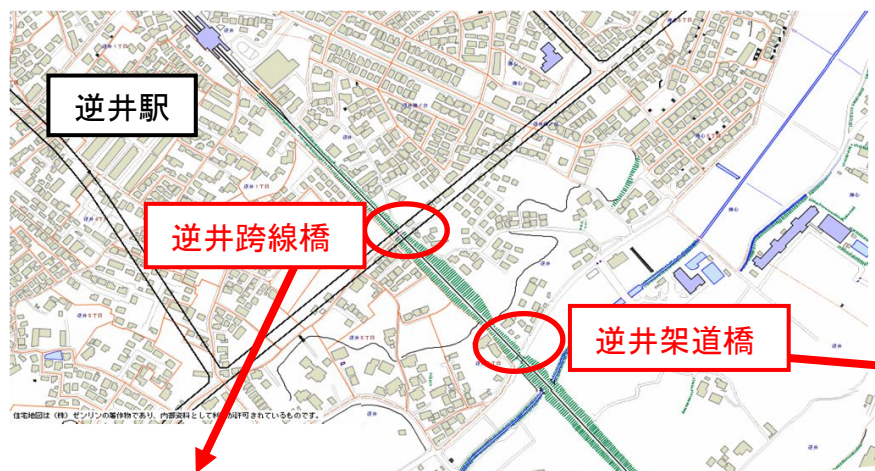
- ・愛称名「東武アーバンパークライン」導入
- ・東武グループ中期経営計画2014～2016にて『六実～逆井間複線化の推進』公表

「輸送力増強」→「複線化推進」

平成27年1月から関係者間にて協議開始

②東武アーバンパークライン(逆井駅～高柳駅)複線化と柏市関連事業

- ・東武鉄道は、複線化事業を進めていくための用地取得を継続していく。
- ・一方、柏市は、鉄道の上空施設を通過する跨線橋等の整備、踏切周辺の市道部分の拡幅整備を複線化事業と平行して進める。



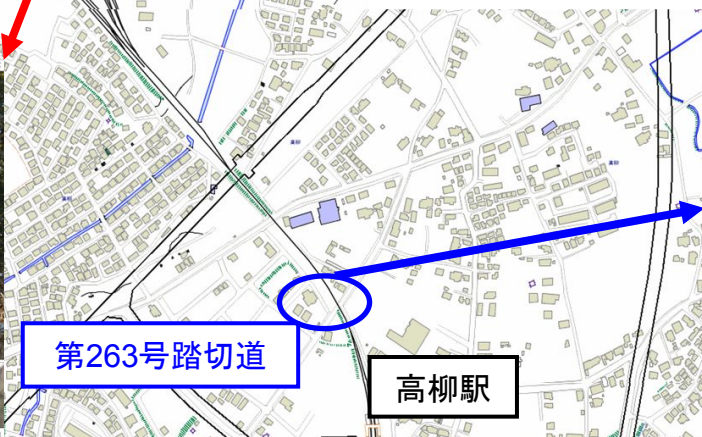
逆井跨線橋 現況



逆井架道橋 現況



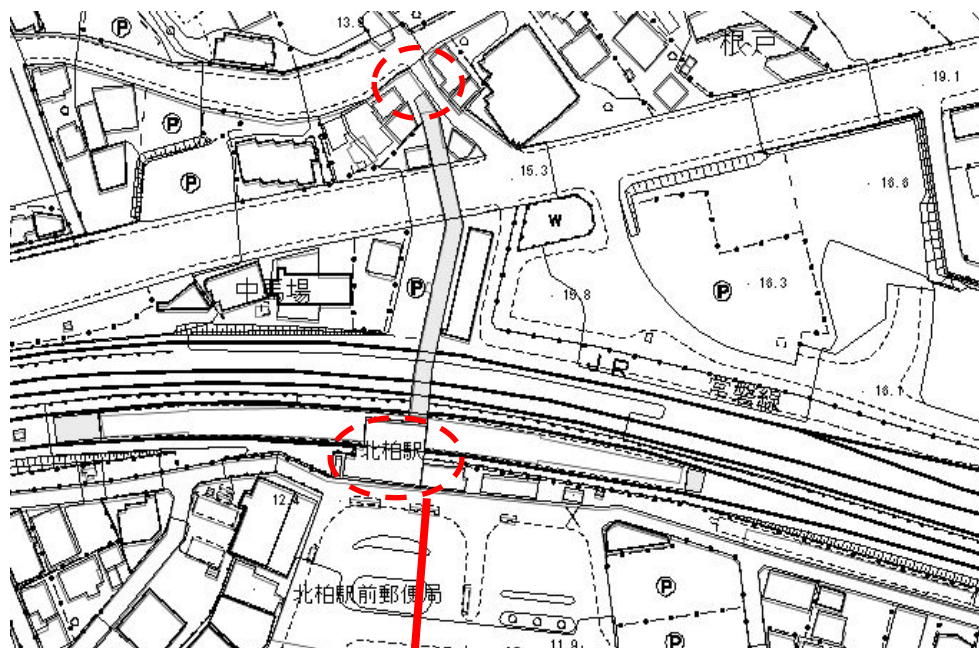
藤心跨線橋 現況



第263号踏切道 現況

③ 鉄道駅のバリアフリー化(JR北柏駅)

- ・平成25年3月 南口改札外にエレベーター1機設置され、南口から改札までのバリアフリー化率100%が達成。
- ・今後は、北口から改札までのバリアフリー化を進めていく。

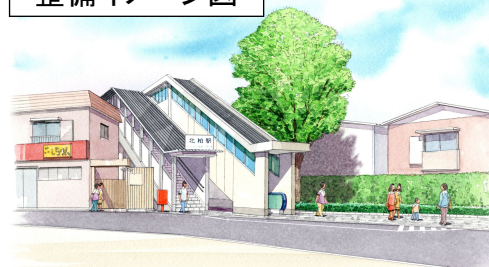


■北口エスカレーター設置工事

北柏駅北口に連絡橋との段差を解消するエスカレーター1機を設置する。

平成26年度～27年度 基本調査並びに実施設計
平成28年度 工事(予定)

整備イメージ図

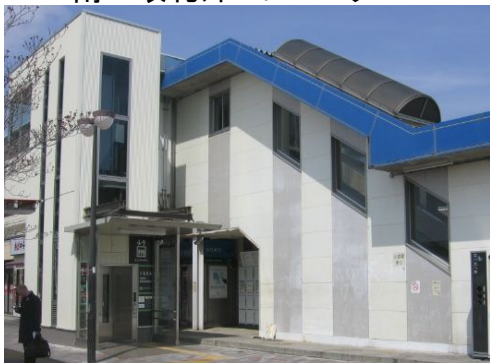


階段正面(現況)



※仕様によりイメージ図と異なる場合があります。

南口改札外エレベーター



駅改札内エレベーター



■北柏駅改札外の段差解消について

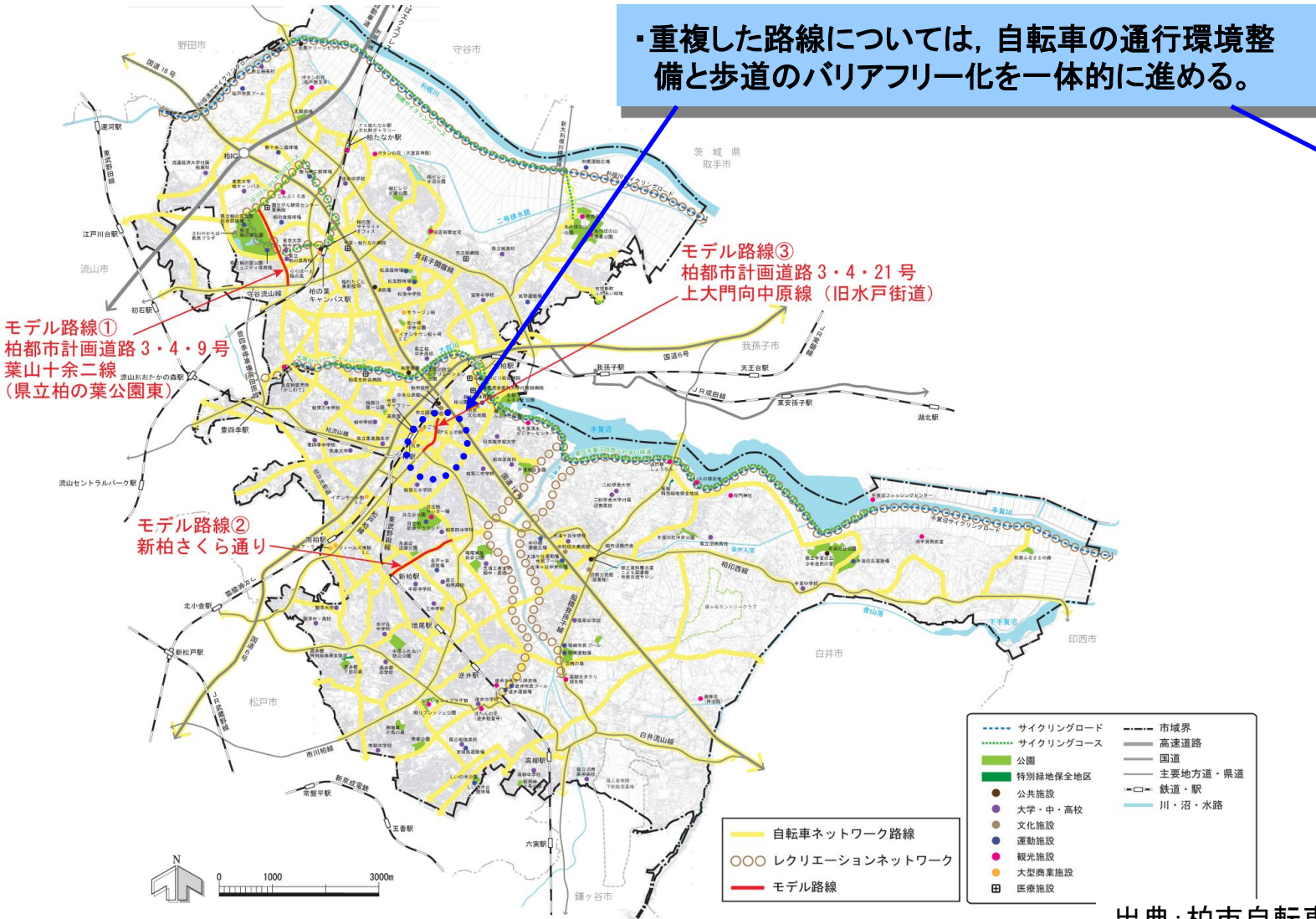
関係者間で調査研究をスタート



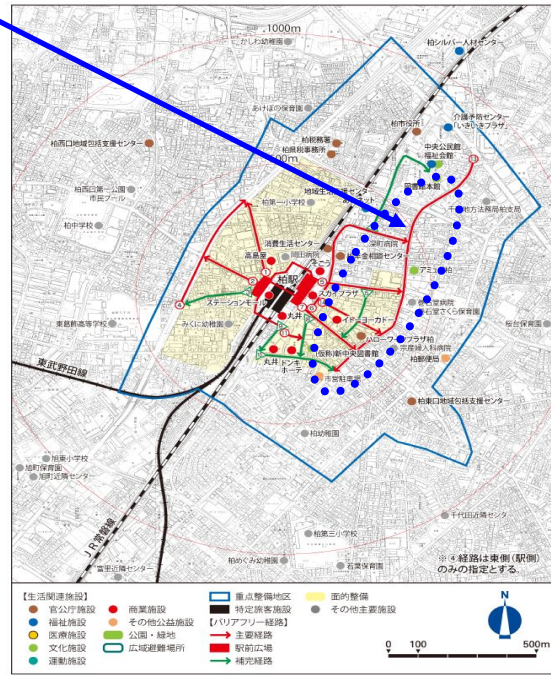
③ 歩行者・自転車通行環境整備について

・平成27年4月策定の「自転車総合計画」にて位置づけたモデル3路線について、順次、自転車レーン等の通行環境整備を進めていく。

自転車通行環境整備モデル路線 位置図



柏駅周辺重点整備地区並びにバリアフリー経路図

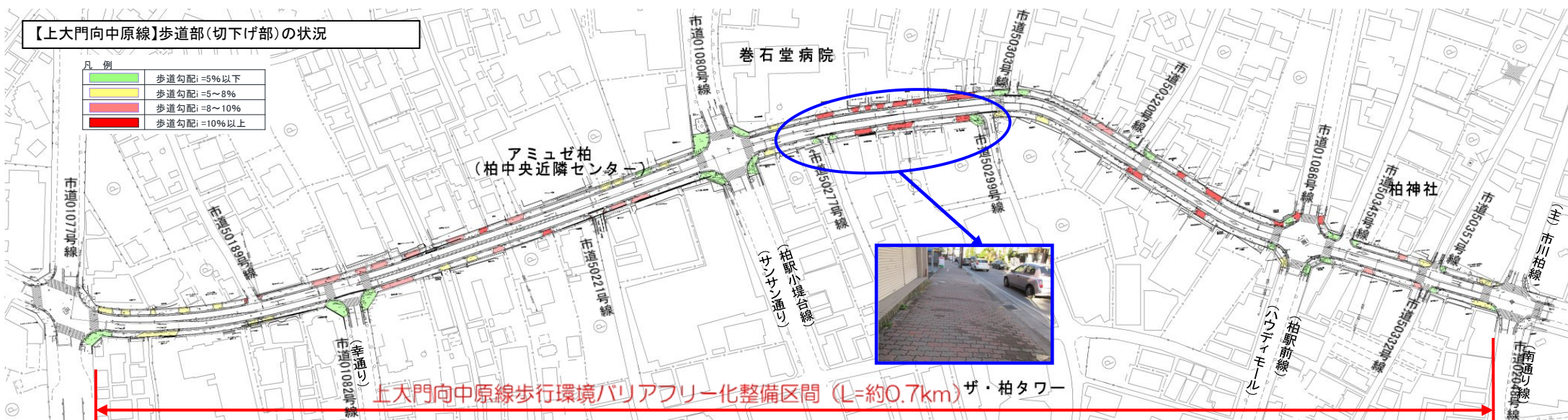


出典：柏市バリアフリー道路特定事業計画

出典：柏市自転車総合計画

旧水戸街道のバリアフリー整備・自転車通行環境整備の概要

【上大門向中原線】歩道部(切下げ部)の状況



歩行環境バリアフリー化実現に向けて

上大門向中原線の歩行環境バリアフリー化実現に向けて、以下の方針として進めていきます。

- 交差点も含めて車道部を全面嵩上げ、歩道形式をセミフラット形式へ変更します。
- 対策範囲は、「市道 01077 号線」から「主要地方道市川柏線」の全区間とします。
- 工事中は、片側交互通行を基本とし、バスを除く大型車は通行禁止（迂回措置）とします。
- 市道 01080 号線から市道 01086 号線までの工事は、バス運行の定時性確保のため夜間工事とします。

【整備スケジュール】

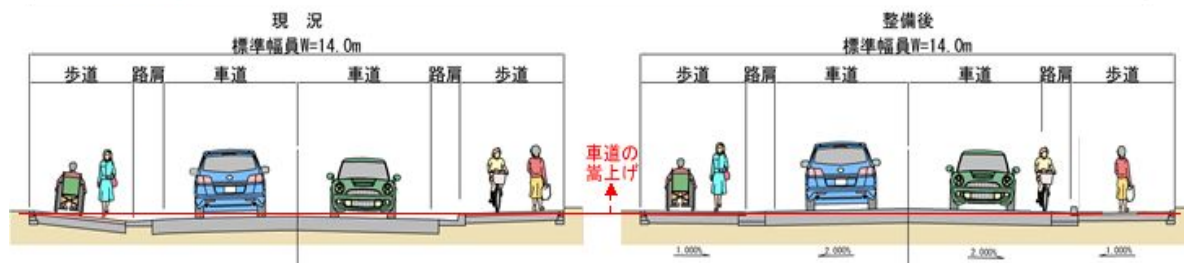
平成26年度 基本調査
 平成28年度 実施設計など
 平成29～30年度 工事(予定)

● 通行位置明示のイメージ



・ナビマーク例

※デザイン、仕様によりイメージ図と異なる場合があります。



マウントアップ形式の構造



セミフラット形式の構造



歩道切下げ部の構造



歩車道境界部の構造



④ モビリティマネジメントの推進について

・今後は、モビリティマネジメントを通じて、自家用車との比較の中で公共交通の優位性(環境&健康&経済面)を市民に対しアピールしていく。

モビリティマネジメントの一例

モビリティマネジメントとは、過度に自動車に頼る状態から、バス等の公共交通や徒歩などを含めた多様な交通手段を、適度に(賢く)利用する状態へと少しずつ変えていく一連の取り組み

路線図 (運行区域)

予約型相乗りタクシー「カシワニカル」
A区域 B区域

かしわ乗合ジャンボタクシー

■運行日 12月1日～1月3日を除く毎日運行

■運賃 大人 200円
小学生・障害者 100円
[障害者乗車の差別による]
[幼児: 大人1人につき1名まで乗車]

■乗車場所
[南船場・浅井コース→田南コース]
南船場老人福祉センター
逆井駅入口
[南船場コース→田南コース]
新ひまわり広場

■乗車料 700円分を500円で販売

かしわ乗合ジャンボタクシー路線図の配布他

岐阜から地球へ GIFUCITY

はじめよう、スマートエコ通勤。

バスや電車で買った新しい出会いがあった。

自転車をこくと風を感じた。

歩いてみたらもっとまちが見えてきた。

スマートエコ通勤すると...

健康(心) CO2排出削減 洗濯解消 水(水)を節約(水道)

第2・4水はスマートエコ通勤の日です。

職員が率先して公共交通等への転換を図ることで、公共交通を中心とした交通環境社会への転換や環境へも配慮したライフスタイルを目指していきます。職員が率先して通勤手段を自家用車から徒歩、自転車、公共交通機関に切り替えることにより、公共交通の利便性向上となり、地球環境問題の大きな原因となっている二酸化炭素排出量の抑制を図り、登校や学びがけなどを通じて、この取り組みを市内全域への取り組みへと発展させ、地球環境にとってより有効なものとしていきます。

担当：企画部交通総合政策課 内線 2610

エコ通勤の推奨(岐阜市)

平成26年度(大道小学校)環境教育出前講座「みんなで考える地球にやさしくヒトにも便利な「かしこい移動のしかた」の実施報告

はじめに

●平成24年度から実施している「地球温暖化と交通」に関する環境教育出前講座について、本年度は2月27日に大道小学校で開催しました。

●これまでの授業では、横浜市より講師を派遣し講座を開催する形式でしたが、今回は教材の準備を横浜市が担当し、小学校の校長先生が講師となり講座を実施した、初めての開催形態となりました。

1 出前講座の概要

●対象 道子館小学校(金沢区)にて、交通手段の選択と地球温暖化との関係を知る授業を開催しました。

●6年生を対象に全5回に渡り開催されている総合学習の授業「自分の将来に向けて考えよう」の最終回として、校長先生に授業とグループワークの授業を行っていただきました。

【大道小学校の位置と交通の概要】
●大道小学校の位置(7分)、金沢駅から約1.5km
●金沢八景駅から約1.5km(徒歩約18分)

テーマ みんなで考える 地球にやさしくヒトにも便利な「かしこい移動のしかた」
目的 地球温暖化のしんが、交通手段の選択と環境問題との関係を知る授業を開催しました。
実施日 平成27年2月27日(金) 1校時 8:45~9:25 学年 2年生 30~1010 グループワーク
対象者 大道小学校6年生(2クラス)

2 出前講座の内容

●出前講座では、「①交通手段の選択と地球温暖化との関係を知る」、「②自分たちの日常生活の中の「かしこい移動」を考える」ことを目標に、以下の内容で2校時の授業を行いました。

交通手段と地球温暖化との関係を知る

内容 /ワーポイントを用い、2クラス合同で授業を実施
配座 子どもたちが自ら調べる問題集をつくるため、授業途中でクイズを行う等、自分の考えを発表する機会を多く設けていきます。
教材 環境問題(44ページ) モビリティマネジメント(44ページ、2種類)

GW おつかいに行くときの「かしこい移動」を考える

内容 身近なお店や公園に、指図の「おつかい」や「遊び」に行く際の「かしこい移動」を考えるGW
配座 大きな地図や、おつかい内容・交通手段のカードを事前に準備し、子どもたちが自由に地図を見ながら、おつかいの目的地にどのようないくべきかを考えられるよう配慮しました。
また、お年寄りや障がい者の方など、子どもたちが行く人、移動を考えるときに重視する条件をサイコロで決めて、そこから実際に地図上で移動のしかたをどう考えるのか、考える機会を設けました。

教材 ①グループワーク解説書(A4版14ページ) ②おつかいカード(3×5cm) ③おつかいカード(3×5cm) ④おつかいカード(3×5cm) ⑤交通手段カード(3×5cm)

小学校における出前講座(横浜市)

・地域住民に対し、モビリティマネジメントを通じて公共交通の優位性が伝わる、深まる施策を展開していくことが大事。
・バス等の公共交通の維持確保をしていくには、行政&住民の協働による検討が不可欠。

(4) 今後の実施スケジュール

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
バス路線再編(計画策定⇒路線再編) 沼南庁舎バス乗継場再整備 (柏市・バス事業者)		地域公共交通網形成計画の策定 乗継場整備に係る設計・施工			
高柳駅自由通路・橋上駅舎の整備 (柏市)	詳細設計	複線化用地の使用開始	自由通路の工事(柏市) 橋上駅舎の工事(柏市)		施設の一部供用開始
鉄道施設の移転 (東武鉄道)	準備工		鉄道施設の移転		
複線化事業(東武鉄道) 柏市関連事業			複線化関連工事		
鉄道駅のバリアフリー化 (柏市) (鉄道事業者)		JR北柏駅北口エスカレーター工事	内方線付点状ブロック設置工事(東武, JR)		北柏駅改札外段差等解消に係る調査研究
歩行者・自転車通行環境整備 (柏市)			モデル路線含む自転車通行環境整備		旧水戸街道バリアフリー化(道路設計・施工)
モビリティマネジメントの推進 (柏市)			バスマップ等の配布継続 ⇒ モビリティマネジメントによる公共交通の利用促進		

(5) 施策の実現に向けて

■体制の強化

- 引き続き上位計画との整合，関連計画との連携を図る。
- モビリティマネジメントの推進については市民との協働，交通事業者との連携を強化する。

■コスト削減・財源確保

- 歩行者及び自転車通行環境整備事業については，事業所管課との連携によりコスト削減，相乗効果を図る。
- 地域公共交通網形成計画等の策定については国の補助金を活用していく。
- 高柳駅関連整備については，所要の財源確保を行うとともに，自由通路並びに橋上駅舎整備を一体に進めることで，工期短縮を図る。

■今後の進行管理

- 交通に関する市民意識調査（平成31年度実施予定）
- パーソントリップ調査（平成30年実施予定）
- これらのデータを分析し総合交通計画の最終評価（施策効果ベース）を行う。

ご意見, ご質問などありましたら下記までお願い致します。

柏市交通政策課

TEL 04-7167-1219

FAX 04-7160-1788

e-mail info-ktsss@city.kashiwa.lg.jp